

数学 I・A 第 2 問〔2〕

- (1) ① 第 1 次産業の就業者数割合の四分位範囲、すなわち箱の長さは、2000 年度までは、後の時点になるにしたがって短くなっている。
よって、正しい。
- ② 1990 年度については、第 1 次産業の就業者数割合の右側のひげの長さの方が長い。
よって、正しくない。
- ③ 第 2 次産業の就業者数割合の中央値を表す線は、1990 年度以降、後の時点になるにしたがって左側に移動している。
よって、正しい。
- ④ 1985 年度から 1990 年度の間については、第 2 次産業の就業者数割合の第 1 四分位数を表す線が右側に移動している。
よって、正しくない。
- ⑤ 第 3 次産業の就業者数割合の第 3 四分位数を表す線は、後の時点になるにしたがって右側に移動している。
よって、正しい。
- ⑥ 第 3 次産業の就業者数割合の最小値を表す線は、後の時点になるにしたがって右側に移動している。
よって、正しい。

以上から タ ①, チ ③ (またはタ ③, チ ①)

- (2) 1985 年度において、第 1 次産業の就業者数割合の最大値は 25 % 以上 30 % 未満の区間にあり、① と ③ の 2 つのグラフがこの条件を満たす。

また、第 3 次産業の就業者数割合の最小値は 45 % であるから、45 % 以上 50 % 未満の区間にある。

- ① と ③ の 2 つのグラフのうち、最小値が 45 % 以上 50 % 未満の区間にあるのは
ツ ①

1995 年度において、第 1 次産業の就業者数割合の最大値は 15 % 以上 20 % 未満であり、② と ④ の 2 つのグラフがこの条件を満たす。

また、第 3 次産業の就業者数割合の中央値は 55 % 以上 60 % 未満である。都道府県は 47 あるから、就業者数割合を値の大きさの順に並べたとき、下から 24 番目の値が中央値である。

- ② と ④ の 2 つのグラフのうち、55 % 以上 60 % 未満の区間に下から 24 番目の値を含んでいるのは テ ④

参考 グラフの判断方法は他にもある。例えば、1985 年度の第 1 次産業の就業者数割合の第 1 四分位数は 5 % 以上 10 % 未満である。① と ③ の 2 つのグラフのうちこれを満たすのは ① であり、実は第 3 次産業の就業者数割合のグラフに注目しなくても判断できる。

- (3) (I) 散布図から、1975 年度に比べて 2015 年の方が相関が強くなったとはいえない。

よって、誤りである。

(II) 1975年度の散布図に比べて、2015年の散布図の方がより直線的に分布している。

よって、正しい。

(III) 散布図から、1975年度に比べて2015年の方が相関が強くなったとはいえない。

よって、誤りである。

以上から ト ⑤

- (4) 各都道府県の、男性の就業者数と女性の就業者数を合計すると就業者数全体になることから、散布図において、各都道府県の女性の就業者数割合の点は、縦軸の50を表す直線に関して、男性の就業者数割合の点と対称な位置にある。したがって、第1次産業の就業者数割合と、女性の就業者数割合の散布図は、図4の散布図を上下反転させたものとなる。

よって ナ ②

